

# 高等学校における 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けて

【国語科編】

平成29年度 高等学校における教科指導充実に関する調査研究

栃木県総合教育センター 平成30年3月

## 今の生徒たちが社会で活躍する時代 …… 2030年を見据えて

今の高校生たちが社会で活躍する2030年頃には、日本は「厳しい挑戦の時代」を迎えると予想されています。少子高齢化に伴う生産年齢人口の急激な減少やグローバル化の進展、技術革新や人工知能(AI)の進化等により、社会の構造や雇用環境が大きく変化し、その変化が加速度的に進むものと考えられているからです。そのような社会においても、人間が人間らしい感性を豊かに働かせながら、未来を創造し、社会や人生をよりよいものにしていくためには、どのような資質・能力を身に付ける必要があるのかということを踏まえて、新しい学習指導要領がつぐされました。

## 新しい学習指導要領の方向性と「主体的・対話的で深い学び」

平成28年12月に中央教育審議会が出した答申を踏まえて、小学校及び中学校の新しい学習指導要領が平成29年3月に公示されました。今回の学習指導要領改訂では、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「新しい時代に必要となる資質・能力」を三つの柱に整理した上で、「何を学ぶか」という学習の目標や内容の見直しとともに、「どのように学ぶか」という学びの過程についても見直すよう求めています。高等学校学習指導要領についても同様の趣旨で改訂され、平成30年3月に公示される予定です。

これまで、学習指導要領では「生きる力」の育成を基本理念として、各教科・科目で学習する内容について定めてきました。今回の改訂では、「生きる力」を捉え直して育成すべき資質・能力として整理した上で、知識・技能の習得だけでなく、それらを活用することで課題の解決に向かったり、よりよい社会の形成に役立てたりすることを目指しています。

そのために必要となるのが、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善です。これは、授業に活動(アクティビティ)を取り入れた「アクティブ・ラーニング」の実施を意味するものではありません。「主体的な学び」の実現、「対話的な学び」の実現、「深い学び」の実現という視点で、これまでの授業を見直し、「教師が教える授業」から「生徒が学ぶ授業」への質的転換を図るという意識が重要です。

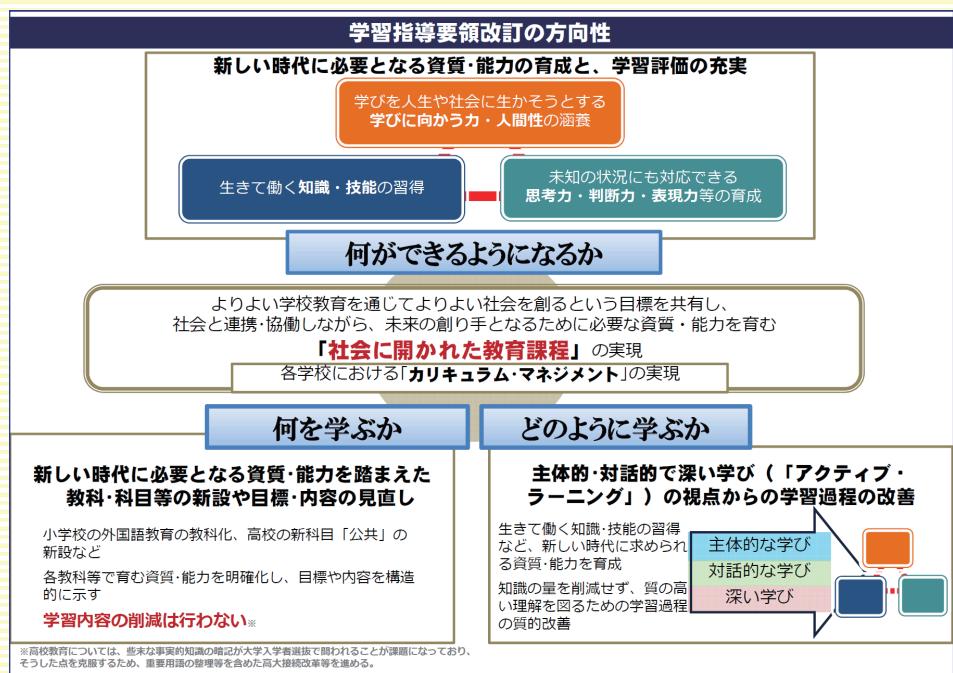
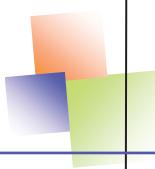


図1 学習指導要領改訂の方向性

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月)補足資料より



# 事例1 複数の古典を比較しながら読むことを通して思考を深める

## 単元 古文作品を深く読み味わう

### これまでの課題

古文の授業は、教師が文法事項や重要古語の意味を生徒に問いかけ、答えさせながら、現代語に訳していくという、教師主体で進められることが多かった。知識の定着を図るために問題演習や逐語訳を行うことには十分な時間を設けているものの、生徒が主体的に、作品そのものを深く読み味わうような活動を設定することが難しかった。

### 授業改善のポイント

文法事項の確認や現代語に訳していく学習について、生徒同士で協働しながら、生徒一人一人が主体的に自分の学習として取り組めるようにする。その上で、作品をより深く読み味わうために、関連するいくつかの古典作品と比較して読む活動を取り入れ、生徒が新たな見方を得たり、考えを深めたりできるようにする。

### 事例の概要

#### 生徒に身に付けさせたい力

- 二つの文章を比較して読むことを通して、論理的に考えを深めようとする力

#### 主体的・協働的な本文へのアプローチ

生徒が主体的に学習に取り組むきっかけとして、授業で扱う古文作品を上段に掲載し、下段に穴埋めをしながら現代語に訳していくことができる自主学習のワークシートを準備した。生徒は、事前にワークシートを用いて学習を行い、その後、他者と協働して文法事項や現代語訳の確認を行う。ワークシートには、本文の内容を深く考えるための手がかりとなる問い合わせを掲載してある。

#### 実践1 『徒然草』の「花は盛りに」と『玉勝間』の比較

『徒然草』「花は盛りに」における兼好法師の「自然観」及び「風流」に対する考え方と、『玉勝間』に書かれている本居宣長の考え方とを比較して読む活動を設定する。本居宣長が『玉勝間』の中で「花は盛りに」を評している箇所を取り上げ、資料として配付する。生徒は、二者の考え方を捉えた上で比較し、最終的には生徒自身の「自然観」及び「風流」に対する考え方をまとめる。

#### 実践2（本時）『土佐日記』の「門出」と『御堂闇白記』の比較

『土佐日記』の「門出」と『御堂闇白記』を比較して読む活動を設定する。生徒は、二つの文章を比較して読んだ後で、KJ法を通して、本時の核になる問い合わせ「なぜ『土佐日記』は女性に仮託して書かれたのか」について考える。付箋は2色用意し、青色の付箋には二つの文章の相違点を、黄色の付箋には二つの文章の類似点を書き出すこととする。付箋に各自の意見を書き出した後で、班ごとに付箋を貼りながら問い合わせに対する意見を班で一つにまとめしていく。班の意見は、A4判の用紙に書き、黒板に貼り出し共有する。

### 授業の様子

#### 主体的・協働的な本文へのアプローチ

生徒は、自主学習のワークシートをもとに、改めて文法書で助動詞の確認をしたり、辞書を引いたりしながら、本文を読み進めていた。理解の進んでいる生徒が、他の生徒の質問に答えたり、説明したりする様子が随所に見られ、協働的な学習が行われていた。

本文の内容を深く考えていく手がかりとして掲載した問い合わせについても、自主的に話し合っていた。



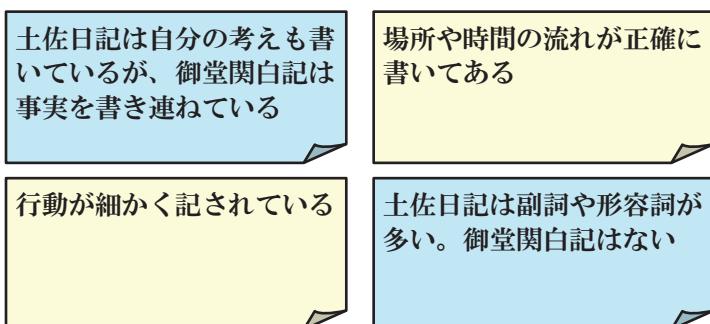
## 実践1 『徒然草』の「花は盛りに」と『玉勝間』の比較

『玉勝間』の資料については、現代語訳を掲載せずに生徒に配付したため、多くの生徒が辞書を活用しながら主体的に大意を捉えようとしていた。読み取りを行った後、兼好法師と本居宣長の考えを比較しながら、どちらの考え方を良しとするか、活発に話し合っていた。

## 実践2 (本時)『土佐日記』の「門出」と『御堂関白記』の比較

『土佐日記』「門出」と『御堂関白記』を比較して読み、相違点や類似点を付箋に書き出す際に、個人で考える時間を設けたことで、生徒たちは自分の意見を必ず一つもつことができた。そのため、付箋を貼り出しながら話合いを進める際も、主体的に話合いに加わろうとする生徒の姿が見られた。K J法を通して、本時の核である「なぜ『土佐日記』は女性に仮託して書かれたのか」という問い合わせについて議論を進めている際も、いくつかの意見を組み合わせてまとめたり、付箋に書かれた内容を具体的に言い換えたりなど、活発なやりとりがなされていた。本時においては、比較する場面を「門出」に限ったため、より深く作品の内容に迫るような意見は見られなかつたが、どの班も「心情を表したかったのではないか」というポイントは押さえることができていた。

〈生徒が付箋に書き出した内容〉



〈K J法で付箋を分類、整理〉



〈K J法を通して、生徒たちが導き出した本時の問い合わせに対する考え方〉

「なぜ『土佐日記』は女性に仮託して書かれたのか」

- ・当時は男性的であった「漢字」よりも、女性的な「かな」のほうが心情を表しやすく、この「かな」を利用して、紀貫之は心理描写をことこまかにしたものにした。
- ・今までの日記は男性が出来事を淡々と書いたものばかりだったので、女性目線で書かれた柔らかい表現をした日記が書きたかったから。
- ・人の日頃の心情を書きたかった。

## 成果と課題

### (1) 成果

文法事項や現代語訳の確認を、生徒同士が協働して行う活動を通して、主体的で協働的な本文へのアプローチが促された。辞書や文法書を使って「気になったらすぐに調べる」という姿勢が身に付き、授業以外の場でも、そのような生徒の姿が継続して見られた。

複数の作品を比較して読み、読みを深めていく活動については、実践1、実践2ともに意欲的な取組となつた。批判的な立場から筆者の考えを捉え直したり、他者と意見交換をしたりと、比較して読む面白さを実感していたようである。また、K J法を通して、様々な意見を踏まえ自分の考えを振り返って考え直したり、新たな視点を得たりなど深い学びが成立していた。

### (2) 今後に向けて

事前に文法事項を調べておいたり、現代語に訳したりしておくことは、文章をしっかりと読み取り、作者に対する自分の考えを深めたり、広げたりするための前提となる。生徒にとって、すぐには効果が実感しにくいような学習に関して、クラス全体の学習意欲の向上を図っていくことの難しさを感じた。

本実践を通して、複数の文章（資料）を比較して読み、考える活動は、生徒の深い読みに効果的な活動であると改めて感じることができた。本実践は二つの文章の比較であったが、今後も生徒の読みを深めるための適切な文章（資料）の数、内容を教材研究によって充実させるとともに、複数の文章を比較して読む活動を授業の中心に据え、実践していきたいと考える。



## 事例2 書くことの充実を図る授業例

「自己との対話」に向けて

### 単元 評論「無彩の色」 短歌 自己の体験を振り返る

#### これまでの課題

「読む能力」を育成する授業に偏りがちで、「書く能力」を育成する授業が単発の取組になってしまっていた。生徒の「書くこと」への苦手意識が解消されないまま、「書くこと」の授業が行われており、「書く能力」の育成、向上を図ることが難しい。

#### 授業改善のポイント

「言葉で感情を表現する」には、様々な方法があることを伝え、生徒が「書くこと」に主体的に取り組める活動を設定する。本文から読み取ったことを手がかりに、「書く」活動を段階的に取り入れ、複数の教材で一つの単元を組み立て、「書くこと」を発展・深化させる。「自己との対話」に向けて、自分の感情を客観的に振り返り、詳しく表現する活動を単元のまとめとして設定する。

#### 事例の概要

##### 生徒に身に付けさせたい力

- ・自分の感情を言葉で表現する力

#### 実践1 色の名前の創作

評論「無彩の色」の本文に「利休鼠」という灰色の名前が登場する。この色の名前をヒントに、印象に残った経験などをもとに、自分の「色」の名前を創作し、その色の説明をする。



創作の条件は次の2点とした。

- ① 全て漢字で創作し、漢字は5文字以上用いることを目指す。
- ② 創作した「色」について説明する文を書く。

利休鼠

#### 実践2 短歌の創作

短歌の読み解を行った上で、短歌の創作を行う。読み解に取り上げる短歌は、正岡子規や斎藤茂吉から、生徒の取り組みやすさを考慮して、『サラダ記念日』、『ドラえもん短歌』まで幅広く取り扱う。

#### 実践3 自己の感情を詳しく書く

実践1、2を踏まえて、「自己との対話」に向けた「書くこと」の活動を設定する。生徒は、「大きく感情が揺れた体験」を思い出し、その体験とその時の感情を振り返り、詳しく書くことに挑戦する。長文を書く前の段階として、五つの質問項目を掲載したワークシートを準備する。それらの質問を考え、考えたことをつなぎ合わせれば長文となるよう質問項目を組み立て、「書くこと」を苦手とする生徒も、あきらめずに取り組めるようにする。

自分の感情が大きく揺れた体験を書いてみよう  
○自分の気持ちが大きくなれた体験を思い出してください  
①いつ、どんな体験だった?  
②その時どんな気持ちだった? (くわしく書く。)  
③その時の気持ちを何かにたとえてみよう。  
④どうしてそんな気持ちになったのか理由を考えてみよう。  
⑤今、振り返ってみるとどう思う? (くわしく書く。)

#### 自分の感情を詳しく書くためのワークシート

##### 質問項目

- ① いつ、どんな体験だった?
- ② その時どんな気持ちだった?
- ③ その時の気持ちを何かにたとえてみよう。
- ④ どうしてそんな気持ちになったのか理由を考えてみよう。
- ⑤ 今、振り返ってみるとどう思う?

# 授業の様子

## 実践1 色の名前の創作

辞書を活用し、苦戦しながらも、自分の色の名前を作ることができた。それぞれ思い思いの色の名前ができあがり、作った色について、グループごとに楽しそうに説明し合っていた。

〈生徒が創作した色の名前とその説明〉

### 引越夜空色

幼い頃から見てきた東京の夜空。周りの建物の明かりで少ししか星が見えない。中学2年生の時、栃木に引っ越してきた日の夜、少し寂しくなり、ふと夜空を見上げた。そこには今までに見たこともないほどの星が瞬いていた。僕の寂しさを埋めてくれた夜空の色。

〈グループ交流後の生徒の感想〉

- 一人一人違う色があって、その色でいろいろな気持ちが表現されていたのですごいと思った。
- 色に込められた思いや考えがすごく伝わってきた。
- 自分とは違う感じ方や考え方があって、聞いていて確かにあるなと思った。

## 実践2 短歌の創作

グループでの交流を通して、短歌の読みを深めた。短歌の読解に対する生徒の反応はよく、創作に期待がもてた。創作においても、時間いっぱい指を折りながら懸命に言葉を選び、推敲する生徒の姿が多く見られた。十分に読解を深められたことが、意欲的な短歌の創作につながったと考える。できあがった短歌は、技術としては未熟なものだとしても、どの生徒も自分の体験を振り返り、粘り強く短歌の創作に取り組むことができていた。

〈読解後の生徒の感想〉

- 一つ一つの言葉を読み解くと、作者が詠んだ時の状況や心境がよく分かってなるほどと思った。短歌に興味をもった。
- 作者の思いがたった31音で表現されていることに感動した。
- 短歌は思いを形にできる方法の一つだと分かった。

## 実践3 自己の感情を詳しく書く

ワークシートの質問項目について考えたことを、順番に記していくことで、どの生徒もスムーズに文章を組み立て、自分の感情を詳しく書くことができていた。特に、「書くこと」を苦手としていた生徒が、一生懸命に辞書を引きながら言葉を紡いでいたり、集中が続きにくい生徒が、一言も言葉を発することなく書くことに取り組んでいたりと、意欲的な姿が多く見られた。提出されたプリントには、過去の体験にしっかりと向き合いながら、その時の感情を冷静に振り返り、今どのように考えるかが生徒自身の言葉で綴られていた。

# 成果と課題

## (1) 成果

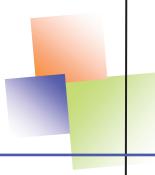
色の名前の創作、短歌の創作から、「大きく感情が揺れた体験」を振り返り、その感情を詳しく書く、という活動を通して、生徒は自分と向き合い、自分の考えや感情を整理し表現することができた。実践1、2、3ともに生徒は意欲的に取り組んでいたが、実践1、2では、友人の気持ちや考えを色の表現から理解したり、短歌に込められた作者の思いに自分の心を重ね、自分のこととして捉えたりすることができた。実践3では、過去の体験を現在から捉え直すことで、自分の気持ちの変化に気付き、自らの成長を実感することができた。より深く自分と向き合い、生徒が自己を客観的に捉えるためのきっかけになったと考える。

## (2) 今後に向けて

本実践を通して、生徒の語彙力をどのように向上させるかが大きな課題となった。毎時10分程度で語彙力向上のための取組を行っていたが、実践3を通して、生徒も語彙力の必要性を実感したようであった。取組で扱った語句を授業やHRなどで意識的に使用し、知識の定着と言葉への意識の向上を図っていきたい。

また、実践中、ある生徒から、自分の気持ちを書くことのメリットについての質問を受けた。教師の説明に真剣に耳を傾ける生徒の姿を目にし、生徒は自己表現をしたくないのではなくということに、改めて気付かされた。生徒自身が目的や必要性を実感して取り組める授業を実践しなければならないと感じた。

最後に、本実践において、生徒は教師の想定をはるかに超えた文章を書いた。今後、より生徒の主体性を伸ばすために、学習内容を振り返り、自らの変容を実感できるような「ポートフォリオ型振り返りシート」について考えている。生徒一人一人が将来「よりよい生活や人間関係を自主的に形成」できることを目指して、3年間を通して指導を充実させていきたい。



## 事例3 主体的な対話活動の実践

効果的な説明から質問へ

### 単元 文章表現の基礎 効果的な説明の方法

#### これまでの課題

「話すこと・聞くこと」の指導が、その場限りのものになりがちで、生徒たちの日常生活に生かされないことが多かった。そのため、他者の話を聞き流してしまい、要点を捉えられなかったり、いくつかの単語のみで会話を行ってしまい、伝えるべき事柄や自らの意見などを適切に表現できなかったりする場面が見られた。

#### 授業改善のポイント

相手が伝えたいことを注意深く聞き取る練習や、相手に伝えるために効果的な説明の順序や語句を生徒同士で考える活動を単元に組み入れた。生徒の興味・関心の高い話題や実生活と結び付いた教材を用いることで、生徒が主体的に授業に臨めるようにした。また、生徒に授業と日常生活とのつながりを感じさせることを意識して授業を行った。

#### 事例の概要

##### 生徒に身に付けさせたい力

- ・目的や場に応じて、相手を意識して話したり、必要な情報を的確に聞き取ったりする力

##### 効果的な説明の方法について理解する

記書きの文書について学び、表記上の注意を理解する。練習試合の連絡について、何をどのような順序で説明すると伝わりやすいかをグループで検討する。

##### オリンピックの競技について説明する（本時）

グループで専門用語等を用いずに、オリンピックの競技についての説明を考える。グループごとに割り振られた競技について、どのように説明するかを考え、発表する。発表を聞いて他のグループは、メモを取りながら、どの競技に当たるかを考える。

##### ことわざでクイズをしよう

グループで、教師が示したことわざについて、意味や用法、誤用等をパソコンを用いて調べる。調べ学習から得た知識を基に、グループごとに、ことわざの説明を行い、何のことわざかを当てる。説明を受けたグループは、ことわざを当てる質問を考え、質問することによって、調べた知識を活用できるようにする。

#### 授業の様子

##### 効果的な説明の方法について理解する

生徒同士の部活動の連絡にメールが利用されていることが多いことを踏まえ、練習試合の連絡をメールで行うという場面を設定した。記書きの文書について学習した上で、実際にどのようなメールがやり取りされているかを確認したため、記書きの項目の配列とメールとを比較しながら、どのような項目がどのような順序で配列されると伝わりやすくなるのかを具体的に考え、活発に意見交換をすることができた。生徒たちが考えた、項目の望ましい配列は、1 「実施日」、2 「時間」、3 「場所」、4 「持ち物」であった。

##### オリンピックの競技について説明する（本時）

教師がいくつかの競技を選定し、各グループに振り分け、その競技を説明するという活動を中心に展開したが、生徒たちの興味・関心が非常に高い話題であったため、生徒たちは楽しくかつ活発に取り組んでいた。競技の説明においては、NGワード（専門用語や選手の名前等）を設定したため、何をどのように説明するか、苦心して言葉を選んでいた。

できあがった説明の発表を聞く際には、メモをとるよう指示しておいた。クイズ形式にしたこともあり、競技名を当てたい一心から、説明内容に対して踏み込んで質問する生徒も見られた。

## 〈ゴルフとホッケーの場合〉

**クイズ、この競技は何でしょう？**

2年 組番 氏名[ ]  
問、下記のNGワードを使わずに、写真を参考に、競技についてわかるように説明してみよう。  
※1、NGワードを使わず、上手に他の言葉で説明すること。  
※2、他の人がこの説明を聞いて、どの競技の説明なのか、わかるように説明すること。  
本時のねらい自分たちのグループで、伝わりやすくするための工夫をして発表に臨むこと。

**競技名 ゴルフ**  
**説明(発表原稿)**

ショートの飛距離は、小さめの球を1つも積まないで、長い。何回か入るトランセが、どちらから積むかは構いません。
長い距離の飛距離は、砂場に小さな球を入れて、少し高く出すのが、とても変です。
長い距離の飛距離は、必ずあります。どれだけ距離が少ない人か、勝利になります。
1年で一番お金をかけている人が、生まれたところ。
個人種目

**NGワード**

外語全般 ・ 専門用語 ・ クラブの名前全般 ・ 選手の名前

**分かりやすいと評価された説明**  
**【ゴルフ】**

- 止まっている状態の小さな球を指定された穴に何回で入れることができるかを競う。
- 特徴は、砂場に球が入ってしまうと大変。

**クイズ、この競技は何でしょう？**

2年 組番 氏名[ ]  
問、下記のNGワードを使わずに、写真を参考に、競技についてわかるように説明してみよう。  
※1、NGワードを使わず、上手に他の言葉で説明すること。  
※2、他の人がこの説明を聞いて、どの競技の説明なのか、わかるように説明すること。  
本時のねらい自分たちのグループで、伝わりやすくするための工夫をして発表に臨むこと。

**競技名 ホッケー**  
**説明(発表原稿)**

選手たるに競技として出場する事ができます。
大きなでも、小さくても、どちらで走行する事が出来ます。
冬季に行われる競技ではありません。
個人種目ではなく、団体種目です。
点を量産した方が勝ちます。
日本生まれではない。
道具が必要で、木で作られています。

**NGワード**

外語全般 ・ 専門用語 ・ 選手の名前

他の競技と受け取られた説明では、どのように得点されるのか、どのような木の道具なのかといった、競技の特徴をイメージすることにつながる説明がなく、野球と答えていた生徒が多く見られた。

### ことわざでクイズをしよう

前時のオリンピックの競技を説明する活動を通して、相手に説明するためには、まずは自分が説明する事柄を理解していかなければならない、という気付きを得ていたため、誰もが調べ学習に活発に取り組んでいた。

調べたことを基にしたことわざクイズでは、正答に近く効果的な質問を考えなければ、ことわざを当てられないと、ポイントを押さえた聞き取りができていた。また質問に答えるに当たっても、正答に直結しない返答を協力して考えていた。

E班	個人、1つ指定のボールを打つ。18か所の場所を回る。	ゴルフ
F班		
G班	室内で人間、同僚技。6人で球を交互に入れる。	ハンドボール
H班	男女ともに出場できる。屋内、屋外どちらでもできる。点をとったほうが勝つ。追及が必要。みんなのように走ったり、球を打つ。おそらく野球、野球。(打つ)。	野球

## 成果と課題

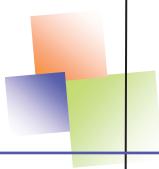
### (1) 成果

生徒にとって身近な話題を題材とし、場面設定を行ったことで、意欲的な活動となった。また、他者に説明を行うには、伝えたい内容を自分自身が理解していないければ伝わらないという課題を生徒自身で見つけ、次の学習へつなげることができた。説明に使用する言葉、説明の順序、それによって伝わる、伝わらないが左右されることを、生徒は実感をもって理解していた。

また、年間を通して、「聴写」、「要約」を段階的に行った。「聴写」では、繰り返すうちに生徒の聞き取りの精度が上がると共に、基本的な漢字の書き誤りが少なくなった。「要約」では、聞き取ってメモをしたことが的外れであると「要約」に結び付かないため、生徒にメモの大切さを理解させることができた。他教科の教師から、「生徒たちがよくメモを取るようになった」という声も聞かれ、授業における取組が、生徒の学校生活に影響を与えていることが感じられた。

### (2) 今後に向けて

活動を単元に組み込んでいく際に、生徒が意欲的に楽しく取り組めることが中心となり、活動がクイズ形式、ゲーム感覚で行うものに終始してしまった。知識の定着を図ったり、生徒自身がじっくりと考えたりする取組や時間を設ける必要性がある。生徒の意欲と確かな学びが結び付いた活動を設定することは難しいが、今後、本実践で行った活動の次に何ができるかを考えていきたい。



# 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

平成28年12月に中央教育審議会から出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(以下、「答申」と表記する。)の中で、「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な考え方方が示されました。それを踏まえて、三つの視点それぞれについての留意点等を以下にまとめます。

## 主体的な学びの実現に向けて

① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

《「答申」より》

生徒が主体的に学ぶためには、学びの有用性や必要性を認識させるとともに、生涯にわたって学び続ける力を身に付けさせる必要があります。そのためには、例えば、学習内容と日常や社会との結び付きや、自分のキャリア形成との関連に着目させながら、自発的に学びたいという興味・関心を引き出すように工夫することが大切です。また、学習の「見通し」をもたせたり、「振り返り」をさせたりすることで、生徒が「自立した学習者」としての力を身に付けることができるようになります。

## 対話的な学びの実現に向けて

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

《「答申」より》

対話的な学びの「対話」には、生徒間の話合いやグループ活動だけでなく、生徒と教師との対話（発問等のやりとり）、地域の人などとの対話（講話等）、先哲との対話（歴史上の人物や文学作品の作者などの考え方方に触れる）なども含まれます。生徒が対話的に学ぶためには、自分とは違う意見や考え方方に触れて、考えを広げたり深めたりする機会を設けることが重要です。そのためには、「対話のテーマを工夫すること」「自分の意見をもたせた上で対話をさせるようにすること」「他者の意見や考え方を尊重できる雰囲気を醸成すること」が大切です。

## 深い学びの実現に向けて

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子供たちが、各教科等の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことが重要である。教員はこの中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくことが求められる。

《「答申」より》

生徒が深い学びをするためには、習得・活用・探究という学びのプロセスを意識した授業づくりを通して、生徒が多面的・多角的に物事を捉えたり、様々な考え方を駆使したりしながら、課題解決に向けて思考を巡らせ、深い理解、考え方の形成、新しい価値の創造などにつなげることができるようになります。

その際、事物を捉えたり思考を進めたりするときの鍵となるものが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。生徒たちは、国語の授業の中で「言葉による見方・考え方」を、数学の授業の中で「数学的な見方・考え方」を…という具合に、それぞれの教科等でそれぞれの「見方や考え方」を働かせながら「深い学び」をします。また、そのような学びを通して身に付けた、深い理解や思考力・判断力・表現力等の資質・能力によって「見方・考え方」がより豊かになります。「見方・考え方」と「資質・能力」はこのような相互の関係にあるものです。

普段の授業を三つの視点から見つめ直し、

不断の授業改善をする。

という教師の意識が、生徒たちの未来を支えます。

## 栃木県総合教育センター

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL：028（665）7204 （研究調査部）

FAX：028（665）7303

本調査研究の詳細についてはWebサイトで公開しています。  
こちらも御覧ください。  
[http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/kyokasido\\_h29/](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/kyokasido_h29/)